



唯一の まちであなを おもてなし 森町



森町基礎データ

総人口	13,678人 (R6年10月末現在)	製造品出荷額	40,388百万円 (R3経済センサス)
高齢人口 (高齢化率)	5,475人 40.0% (R6年10月末現在)	卸・小売年間販売額	32,495百万円 (R3経済センサス)
世帯数	7,514世帯 (R6年10月末現在)	一般会計規模	11,968,111千円 (R6当初予算)
人口密度	37.1人/km ²	町の木	さくら
面積	368.79km ²	町の花	茅部ぐり
農業産出額	10,430百万円 (R4市町村別農業産出額)	町の鳥	カモメ

森町の紹介

南北海道の内浦湾と秀峰駒ヶ岳の周囲に位置する森町 (もりまち) は、人口約14,000人、総面積368平方キロメートルで、農業、漁業及び水産加工業が基幹産業となっています。

真夏でも30℃を超えることがほとんどなく、真冬でもマイナス15℃まで下がることは珍しい年間平均気温が7～8℃の積雪が少ない温暖な町です。

森町はいかめし発祥の地としても有名で、全国駅弁ランキングでもトップの人気を誇っています。

地元では家庭料理として親しまれるほど馴染みの料理となっています。

また、幕末・維新時代、戊辰戦争最期の戦いとなる箱館戦争では、榎本武揚・土方歳三などを中心とした旧幕府軍が上陸 (明治元年) した場所であり、江戸時代の濁川温泉の開湯時には、幕府の下役人であった間宮林蔵が巡見を訪れた地でもあります。

森栈橋工事を行った際に榎本武揚の発案で木材に原油を塗ったのが国内の木材防腐工法の始まりとされ、さらに大正9年に日本初の

冷凍食品が製造された町であり、北海道初の大規模地熱発電所が建設された町でもあります。



鷺ノ木上陸地

森町のイベント

●もりまち桜まつり

例年4月下旬から5月中旬にわたり開催されているイベントです。

役場隣の青葉ヶ丘公園を会場に、メインイベントの歌謡ショーのほか、各種の参加型イベントも行われます。

また期間中、家畜共進会場では、ばんば大会が開催されます。

開催期間中、森町観光ボランティアガイドの会会員が常駐しており、森町の桜に関することや森町の歴史などについてガイドしております。



もりまち桜まつり

●夏のまつりinもり

例年8月上旬に森町大通りを会場に、踊りやみこしで盛り上がる夏祭り。よさこいソーランや子どもワッショイまつり、町民総出の「オニウシソイヤ」の踊りやみこしが一体となって会場を練り歩き、友好町である静岡県遠州森町の「まつり屋台」も参加して、祭りを盛り上げます。



夏のまつりinもり

●さわらふるさとまつり

例年9月中旬に開催される砂原地区の収穫祭。森の味覚を海の幸・山の幸バザーで格安に販売します。歌謡ショーや郷土芸能などの

ライブイベントが行われ、バーベキューコーナーやカジカ汁の無料配布なども行われます。



さわらふるさとまつり

森町のみどころ

●鳥崎八景

噴火湾へ注ぐ鳥崎川を上流に進んだ渓谷は、その美しさから「鳥崎渓谷」と呼ばれており、特に風光明媚な場所は「鳥崎渓谷八景」と名付けられ案内板が設置されています。紅葉の美しい場所として、また溪流釣りの名所としても知られています。



鳥崎八景（上大滝）

●濁川温泉

森町の北西部に位置する濁川を上流へ進むと、深い森で覆われた渓谷が突然開け、豊かな田園風景が広がります。太古の火山噴火により形成されたカルデラである濁川盆地です。

ここで温泉が発見されたのは江戸時代のこと。寛政10（1798）年に奉納された薬師如来像が歴史の古さを感じさせます。その後、文化4（1807）年、温泉場の開設を村役人の加賀屋半左衛門が幕府に願い出たところ、幕府下役の小川喜太郎、間宮林蔵が巡見し、山道の開削を命じました。そして、新たに湯治場を開設したのが濁川温泉の開湯とされ、以来、効能の高い湯治場として今日まで利用されてきました。

●青葉ヶ丘公園

大正3年に開設された歴史ある公園は、森町の市街地の中心にあり、町民の憩いの場として親しまれています。ソメイヨシノを筆頭に17種類約1,000本もの桜が植えられ、「森小町」など固有種も見られます。また園内の「茅部の栗林」は北海道の天然記念物に指定されており、古来からの原生林の姿を残していて、樹齢200年に達する老木も含め約130本もあります。

●考古遺跡

森町には、古代遺跡があり、約8000年前頃から先住民が住んでいたことが分かっています。中でも「鷺ノ木遺跡」からは縄文時代後期（約4000年前）に構築された北海道最大級の環状列石が完全な形で発見されました。こ



鷺ノ木遺跡の環状列石と駒ヶ岳

れは全国的にもきわめて貴重で国指定史跡となりました。今後の調査によって数千年前の集落がよみがえる期待も高く、考古学界の注目の的となっています。

●史跡

古くから噴火湾の恩恵を受ける森町には、当時の人々の暮らしを映す多くの史跡が残っています。ニシン漁が盛んで、江戸時代には漁業交易区域に「茅部場所」として指定されていました。国道5号線沿いに建つ本茅部地区の「茅部の鯡供養塔」はその頃に建てられたもので、道の指定有形文化財となっています。また幕府が幕末に、北方警備を南部藩に当たさせた屯所の跡地が国指定史跡「東蝦夷地南部藩陣屋跡砂原陣屋跡」として残っています。幕末・維新の時代には箱館戦争に先立ち、旧幕府軍の榎本武揚や土方歳三らが上陸した場所として知られています（鷺ノ木上陸地碑）。近代では、大正9年、日本で初めて冷凍食品事業が行われたことを示す「日本冷凍食品事業発祥の地碑」や日本初の長距離馬車路「札幌本道」唯一の遺構である「森栈橋跡」があります。



森栈橋跡

森町の四季



【春】青葉ヶ丘公園



【夏】砂崎灯台



【秋】オニウシ公園



【冬】冬季スポーツフェスティバル